



Title	水曜例会：「内モンゴルのモンゴル語と双語教育の問題について」
Author(s)	内田，敦之
Citation	モンゴル研究. 2022, 31, p. 63-67
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102425
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

《活動報告》

モンゴル研究会水曜例会：

「内モンゴルのモンゴル語と双語教育の問題について」

内田 敦之

中国政府は2020年夏、「双語教育」政策によりモンゴル人子弟のモンゴル語による学校教育を制限または停止する政策を強行した。「双語教育」は、一般的に「バイリンガル教育」を表す漢語（中国語）であるが、内モンゴル出身の亡命作家B. トウムンウルジーはこれを「教育言語を切替えるプロセスを示すことば。本質はモンゴル語の使用を教育システムにおいて禁じ、モンゴル人を迅速に同化しようとする植民地テクノロジーである」と説明している。

この政策が突然実施されてから2022年5月ですでに1年9か月が過ぎているが、モンゴル語にとって現在も継続中の重大な問題であるので、その後の動きについても少し付け加えて簡単に報告しようと思う。

1. 問題の経緯

2020年9月9日（水）、この問題について水曜例会で発表する機会を得た。中国の政治問題であり要らぬ妨害が入るのを避けるため、広く参加者を募ることはせずに当日は参加者を限定して実施した。例会では、問題の経緯、それに対するモンゴル人の抗議運動、当局の弾圧などについて報告した。

今回の問題は以下のような流れで起こった。

2020年6月下旬、内モンゴルの民族学校における教育言語がモンゴル語から漢語に変更されるという噂がジレム・アイマグ（現在の通遼市）で広がった。ただし、公文書による正式な発表がなかったため、当初はモンゴル人もそれほど心配していなかったという。新学期直前の8月25日、変更について内モンゴル政府教育庁のウェブサイトで初めて公表、翌26日「全区民族語言授課学校小学一年級和初中一年級使用国家統編《語文》教材實施法案」という公文書が発出され、同28日、内モンゴル・テレビでも報道された。

変更の内容は、① 民族学校でこれまで教えられてきた *ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠤᠯᠤᠰ*（モンゴル語文）を全国共通の *ᠤᠯᠤᠰ*（語文）という漢語科目に切り替える。この変更によってモンゴル人にとっての国語に当たる「モンゴル語」が「漢語」に突然替わることになった。② 2021年度からは「政治（道徳＋法治）」、2022年度から「歴史」も漢語で教えることになる。この変更は内モンゴルだけでなく、モンゴル人が多く暮らす甘肅、ギリン（吉林）、遼寧、ククノール（青海）、四川など5省も対象になっている。ただし現地情報によると、2021年度を待たずに2020年の新学期から全ての教科書が漢語に変更された地域もあるようだ。

2. モンゴル人による抗議運動

新学期直前の8月末になってこの変更について知らされた保護者が学校の寮に入れた児童を連れ帰るため学校に押しかけたが、校門に配置された警官に阻止される騒ぎとなる。9月1日新学期が始まった後も、多くの保護者・児童・教員が登校・授業をボイコットし（推定30万人の児童がボイコットしたという）、平和的な抗議デモや集会に参加、学校内外でモンゴルの歌を歌ったり、スローガンを叫んだりするなどした。また、各職場・団体で血判状・傘連判状を作ってSNSにアップするなどの運動も展開。さらに、内モンゴル・ラジオ・テレビ局のモンゴル人職員約300人が集まり、この改悪に反対する共同声明に署名した。同声明では、児童を登校させるように命じられた職員10人のうちの誰かが命令を拒否して解雇された場合、グループ全体で一斉に辞職する準備があることを宣言した。これら一連の抗議運動の過程で、内モンゴル各地の保護者や教員、共産党職員ら9人が状況を悲観して自死したという。

現地での一連の動きを受けて9月からほぼ毎月、日本で暮らす内モンゴル出身のモンゴル人を中心とした数人から数十人、100人規模の抗議デモが中国大使館・総領事館周辺で実施された。中でも9月12日東京で実施された 9・12  (9・12東京大デモ) は、政治色を可能な限り排除し、この政策の変更が中国の憲法・法律違反であることを前面に打ち出したため、多くのモンゴル人の支持を得て1000人余りが参加、モンゴル人による抗議運動としてはこれまでで最大規模となった。

また、米国議会の署名サイト WE the PEOPLE において9月初めから約10日間で署名が目標数を越えた。署名スタートから30日以内に10万筆を超えれば、議会で取り上げるようになっており、これまでに少なくとも下院でモンゴル語への弾圧について取り上げられたという。

3. 当局による弾圧

モンゴル人による非暴力の抗議運動に対して当局は警官や武装警察を使ってデモ隊を排除・制圧した。内モンゴルの中心都市であるフフホトにはこの時期、軍と装甲車を動員していたとの情報もある。抗議運動の参加者など8千～1万人が逮捕・勾留され（問題発生当初）、当日釈放された人もいれば数か月に渡って勾留された人もいたという。この件で懲役5年の判決を受けた人もいるとのことである。

武力による制圧だけでなく、児童を登校させない保護者に対し警察に呼び出す、解雇する、党籍を剥奪する、社会保障費を削る、ブラックリストに入れるなどの方法で児童の登校を強制した。

またネット上では、40万人のユーザーが登録していたモンゴル語 SNS の“Bainu”をブロックし、ウィーチャットの多くのグループを閉鎖、当局への批判をアップしたモンゴル人を逮捕、抗議デモ参加者100人以上の顔写真入り指名手配をウィーチャットにアップ、情報提供者には1000元の懸賞金をかけるなどした。これら当局の弾圧により、民族学校における混乱は数週間後には表面的な落ち着きを取り戻したという。

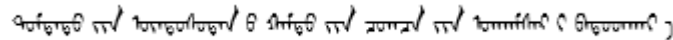
一方、当局は在日モンゴル人に対する締め付けも強化している。内モンゴル出身の留学生のもとに当局関係者が訪れてこの問題に関する見解を発信しないよう脅しをかけたり、留学生が現地で暮らす家族とビデオチャットで話していると突然、当局関係者と思われる見知らぬ人が割り込んで、抗議運動の内容について質問するなど圧力をかけている。

4. その後の動き

(1) 現地の動き

現地の情報統制がより厳しくなっているらしく、現状について包括的な情報が入りにくくなっているようである。

ジョーオダ・アイマグ(現赤峰市)では政治や歴史の授業もすでに漢語で教えられるようになっていくという(2021年3月現在)。その一方で、モンゴル人の比率が70～80%と他の地域より格段に高いシリンゴル・アイマグ南部のチャハル地域では、試験的にいくつかの授業を漢語で行う以外は教科書も授業もモンゴル語のままでは変化は見られないという情報もある。同ウジュムチン・ホショーでも授業はモンゴル語で行われているという(2021年9月現在)。このように地域による差が大きいのは、中央からの政策変更が性急すぎたため、地方政府の采配にゆだねられている部分が多いのかもしれない。

ある民族学校の校舎の壁に掲げてあったモンゴル語の詩の一節が問題発生後、当局のスローガン  铸牢中华民族共同体意识(中華民族としての共同体意識を確実に定着させよう)に取り替えられた。また、街中にあったモンゴル関係のオブジェを取り壊したり、地域によっては図書館や書店のモンゴル語の書籍が棚から姿を消すなど文革時のような焚書が実施されているようである。

また、内モンゴル自治区主席王莉霞氏が2021年秋、自治区教育庁長官と共に内モンゴル東部に出張、新しい進学基準を口頭で通達したという。内容は概ね以下の2点である。①今後民族学校に進学する際、学区制を導入、当該学区に民族学校がない場合、児童がモンゴル語教育を希望しても漢語で教育する一般学校に入学させる(これまでは民族学校への進学は学区の制限を受けなかった。内モンゴルの各学区に民族学校が必ずしもあるわけではない)。②モンゴル語で教えている教員のパソコンからモンゴル語ソフトを全て削除し、北京から新しいパソコンを購入して使用させる。

民族幼稚園の教授言語も2021年9月から漢語に変更する動きが進んでいる。ただし、フフホトのある幼稚園では同年2月末のPTA会議の席上で幼稚園側から3月以降教授言語を漢語に変更する旨の話が突然あったという。3月から通園が始まり、園児に「先生はモンゴル語で話してる?、それとも漢語で話してる?」と聞くと、小声で「モンゴル語で話してるよ」と答えた。その後何度か同じ質問をすると「モンゴル語で話したり漢語で話したりしている」という答えだったという。民族幼稚園にはまだ漢語がほとんどできないモンゴル人園児がたくさんいるにもかかわらず、このような強硬策を実施している。

さらに、民族幼稚園では漢人児童の入学を許可し始めているという。モンゴル語が理解できない漢人児童がやってくると、当然ながら教授言語は漢語に切替えられる。フフホトのある幼稚園に電話で問い合わせたところ、9月以降はモンゴル語が使用されなくなるという答えであったという。

(2) 世界モンゴル人連盟の設立

この問題に関連して2020年10月以降、中国領モンゴルやモンゴル国など世界中のモンゴル人がネット上で会議を複数回開いた。その結果、日本でO.チョクト(楊海英)氏を理事長とする世界モンゴル

人連盟が設立された。同時にウランバートルでも Ts. エルベグドルジ元大統領を理事長として同名の団体が設立された。2つの団体名が同じなので、てっきり国境を越えて統一された団体が設立されたのかと思われたが、どうもそうではないらしい。中国領モンゴルとモンゴル国、そして、内モンゴルの政治団体間の対立やわだかまりがそのまま持ち込まれて同名の別団体ができたようである。いずれにせよ、世界中のモンゴル人が連帯するきっかけになったことは特筆に値するであろう。いまやモンゴル文字を日常的に使用しているのは世界中で中国領モンゴルのモンゴル人だけである。彼らがモンゴル語を失うことは、モンゴル人、否、人類が文化遺産としての縦書きのモンゴル文字を失うことにつながるのである。この問題を契機としてユーラシア各地に分断されているモンゴル人の文化的な交流が進むことを心から願う。

（３）南モンゴルを支援する議員連盟の設立

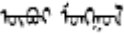
もう一つこの問題に関連する動きとして、自民党国会議員有志によって「南モンゴルを支援する議員連盟」が2021年4月に設立された。内モンゴル支援に特化した議連は世界でも初めてとのことで、議連設立に向けて動いてきた南モンゴルクリルタイや O. チョクト氏は期待を寄せている。議連会長には高市早苗議員、幹部には山田宏議員、上野宏史議員らが名を連ねている。同年9月には、神奈川県綾瀬市の笠間昇市議会議員を中心に「南モンゴルを応援する全国地方議員の会」も設立された。

チベットやウイグルのように国際的支援をあまり受けてこれなかった中国領モンゴルの運動を支援してくれる日本人の存在は大変有難い。ただし、モンゴルの歴史や文化、とりわけ日本と中国領モンゴルの関係史について深く理解する努力を惜しまず、広い意味でのマイノリティの人権という普遍的価値を共有しながら長い目で支援を続けていってほしい。

お互い悠久の歴史、独自の文化を有する民族である。現在の経済力や国際社会での立場のみで上から目線での態度や、こちらの思うようにならないと途中で投げ出してしまうようなことにならないことを切に願っている。

5. さいごに

さて、報告が長くなってしまったが、最後にひと言。近年、中国領モンゴルの活動家たちが内モンゴルを「南モンゴル」と呼ぶようになっている。「内」モンゴルは漠地から見た呼称なので使いたくないということである。

「南モンゴル」という呼称は、上記のように政治的意味合いが強いため、意識ある一部の人のみには古くから使われてきたであろう。例えば、田中克彦は『草原の革命家たち』（1973）ですでに使っている。ただし、モンゴルが3つの社会主義国家に分断されていた時代には体制が変わって久しい近年のように公に使われることはあまりなかったようである。時代はずっと下って2013年4月、台北で採択された「台湾宣言」に「」を各言語で『南モンゴル』『南蒙古』『Southern mongolia』とする」と明記され、内モンゴル人民党とモンゴル自由連盟党（南モンゴルクリルタイ）の代表が名を連ねて署名している。これ以降、この用語が少しずつ使われるようになったようである。この「南モンゴル」という用語は当初「中国領モンゴルを全て含む」としていたが、近年は「内モンゴル」の単純な言い換えとして使われている場合がほとんどである。さらに、クリルタイ関係者は  という歴史的な呼称を

ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠲᠤᠮᠤᠭᠤᠯᠤᠯᠤᠰ という「南モンゴル」を直訳した用語に取り替えて使用するに至っている。この用語については B. トウムンウルジーが「自ら進んでモンゴルの歴史的地名を変更してなくしてしまうことは漢人にとって都合がいいのではないかと10年以上前から警鐘を鳴らしていた。中国政府は「ジレム・アイマグ」を「通遼市」、「ジョーオダ・アイマグ」を「赤峰市」に変えるなどモンゴルの呼称を次々に中国風に改変してきたのではなかったか。

さらに、この用語は内モンゴルの民族自決権や独立をうたう政治団体に好んで使われており、家族や親戚を現地に残して海外に住んでいるモンゴル人たちがその運動や活動にアクセスするのをより難しくしているという現実もある。

「南モンゴル」を「内モンゴル」の意味で使うなら、モンゴル国と同緯度に位置するバルガ・フルンボイルを含む内モンゴルを「南モンゴル」と呼ぶことに矛盾はないのか。また、内モンゴルより南にあるククノールや甘肅などにあるモンゴル地域をどう呼ぶのか。「南モンゴル」と呼ぶことで内モンゴル以外のモンゴル地域を排除することになっていないのか。中国領内ではマジョリティの内モンゴルのモンゴル人たちはこれまでずっと内モンゴル以外の中国領モンゴルを排除してきたのではないのか。その一方、「南モンゴル」を「中国領モンゴル」の意味で使うとすれば、内モンゴルだけを指す場合にはどのように呼べばいいのか。上に述べたような問題を解決する説明がなされていないので、きちんと定義されずに恣意的に使われている「南モンゴル」という用語を私個人は性急に使わないようにしている。近い将来、モンゴル人がきちんと定義し、納得できれば使っていこうと考えている。

<参考資料> (順不同)

Хамаг монгол төслийн хаалт

https://www.facebook.com/watch/live/?ref=watch_permalink&v=311432590713201

Залуучууд Буриадаар ярьж байна

<https://www.youtube.com/watch?v=5HsONqeqpvI>

"Mendu, ta kalmak keeleer yarik durtavu ?"

https://www.youtube.com/watch?v=uf_wkCGeD_4&ab_channel=Mr.Rice

Ш.Чоймаа багшийн “Монгол бичгийн хичээл”

<https://www.facebook.com/khiyad.erdembat/videos/1168260880016219/>

SMHRIC ウェブサイト <https://www.smhric.org/>

Өмнөд монгол

https://www.youtube.com/results?search_query=%D3%A8%D0%BC%D0%BD%D3%A9%D0%B4+%D0%9C%D0%BE%D0%BD%D0%B3%D0%BE%D0%BB

(うちだ としゆき)